

I T活用国語科学習指導案

作成者 教育センター指導主事

1. 校 種 高等学校

2. 対象生徒 第1学年

3. 教科等 国語科・国語表現 I

4. 単元名 言葉を豊かに

5. 単元の指導計画（総時数3時間）

第一次 言葉の豊かさについて考える

 1時 方言と共通語の役割を理解し、場に応じた使い分けを考える・・・本時

 2時 教科書本文を読み、方言についての自分の考えを深める

（第一次の計 2時間）

第二次 自分たちの言語使用の状況を振り返りつつ、方言についての

自分の考えを文章にまとめる・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）

6. 本時の学習

（1）題 目 方言と共通語

（2）ねらい

身近な言語文化である方言の良さを見直し、尊重する気持ちをもつことができる。

【関心・意欲・態度】

方言と共通語の果たす役割などについて理解し、場に応じた使い分けを考えることができる。

【知識・理解】

（3）I T教材を使う意図

方言を扱った学習活動は、ふるさと教育の推進につながり、かつ自分の言語活動を見つめ直す絶好の機会となる意味でも、今後一層重要な価値をもってくる。その方言を扱った学習指導には、実際の方言会話を視覚的に提示し、たやすく繰り返しができる再生装置が最も有効と考える。

ここでは、生徒にとって身近な石川県内での主な方言会話例（大聖寺、金沢、珠洲）を収録したメディア教材を通して見聞することで、共通語による会話とは異なる和やかな雰囲気を作り出されている点を実感し、方言に対する関心を高めたい。

また、地域や世代による方言の差異や特徴に気づかせ、文章にまとめることで、課題を見出す力や論理的にまとめる力を育成することもねらう。

（4）使用ソフト マルチメディア教材「石川の民話・方言」（石川県教育センター）

(6) IT教材の説明



同じ石川県でも、地域によって、かなり話し言葉やそこから生み出される雰囲気がちがいます。

また、同じ地域の中でも、子どもたちとお年寄りの話している言葉づかいや抑揚がちがいます。

珠洲、金沢、大聖寺、3つの地域の会話を聞いて、地域の特徴をつかんだり、比べたりしましょう。

→珠洲の方言会話

→金沢の方言会話

→大聖寺の方言会話

①について

- ・ マルチメディア教材のセカンドページ「石川県内の主な方言会話」
- ・ 石川県内の、どの地域の方言会話を収録してあるのかを知らせる。

参 考 「共通語による会話例（共通）」

A：おはようございます。

B：おはよう。今日は、寒いねえ。

A：昨日の夜は、思ったより、たくさん雪が降ったからね。

B：そうだね。朝早くから、一所懸命に除雪をしていて、足が雪にはまって大変だったよ。

A：そう。私は、昨日、あの雪の中を、犬の散歩で1時間も歩いたので、風邪をひいてしまったみたいなんだ。

B：そんな、ばかなことをするからだよ。大丈夫か？

A：ええ、まだちょっと熱があってつらいけれど、大丈夫です。

B：じゃあ、お宅の前も除雪するよ。無理しないで、休んでいなさい。

A：あら、すみません。それではお願いしてもいい？本当にありがとう。



②について

- ・大聖寺の方言による会話（お年寄り編）
- ・1回目の再生
→自由に感じたことを話し合わせる
- ・2回目の再生
→次の語がどう言われているかに注意させる
[寒いね・たくさん・大丈夫か・ありがとう]
- ・3回目の再生
→聞き取った言葉を確認させる



③について

- ・珠洲の方言による会話（お年寄り編）
- ・1回目の再生
→自由に感じたことを話し合わせる
- ・2回目の再生
→次の語がどう言われているかに注意させる
[寒いね・たくさん・大丈夫か・ありがとう]
- ・3回目の再生
→聞き取った言葉を確認させる



④について

- ・金沢の方言による会話（お年寄り編）
- ・1回目の再生
→自由に感じたことを話し合わせる
- ・2回目の再生
→次の語がどう言われているかに注意させる
[寒いね・たくさん・大丈夫か・ありがとう]
- ・3回目の再生
→聞き取った言葉を確認させる